

宮坂建設工業が札幌で植樹 500本の苗木を植える

森づくり協定の第1回活動に

宮坂建設工業(株)(帯広、宮坂寿文社長)は二十三日、札幌市内の手稲区山口緑地で植樹活動を行った。写真。札幌市との「森づくり協定書」に基づき第



一回の活動となったもので、五百本の苗木を植えた。同社では創業九十年、札幌支店開設七十年の節目を迎えたことし、「汗を流し活動することで環境問題に貢献したい」と札幌市と森づくり協定書を調印。建設会社では覚書を交わした第

一号の企業となった。手稲区内の山口緑地七千平方メートルに三千年まで苗木三千五百本の植樹・育樹活動を継続して計画している。現地は山口緑地内のパークゴルフ場に隣接する丘陵地。その七千五百平方メートルを活動区域とした。

当日は役員、OBをはじめ技術指導としてNPO法人の「新川草木を育てる集い」の関係者ら三十人が参加。活動に先立ち菊池章常務があいさつし、活動の経緯

を振り返りながら「社長から皆さんに『苦労さま』と言った。これを契機に継続的に行える事業があれば考えていきたい」と活動の意義を訴えた。

植樹ではNPOの関係者がさし木に苗木を固定する縛り方や植える際の掘る深さ、肥料の配分について説明。そのあと、シヨベルを持って分散し思い思いにトドマツやミスナラなど八種類の苗木を植樹した。水分を含む土壌は、四十五センチの深さを掘るものかなりの重労働で参加者は額に汗をかきながら苗木を丁寧に植えていった。